

事例1 絵画資料の読み取りをもとに、13世紀の社会の様子を表現する授業

1 ねらい

新学習指導要領において、「日本史B」では大項目「(2)中世の日本と東アジア」に中項目「A 歴史の解釈」が設けられた。ここでは「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象等の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」ことがねらいとされている。この中項目は、大項目「(1)原始・古代の日本と東アジア」の中項目「A 歴史と資料」において、歴史資料の特性に注目したり、資料にもとづいて歴史が叙述されたりしていることを理解する学習をしていることを受けて、実際に歴史資料を活用して、その読み取りや解釈を行う項目として位置付けられている。また、その例として、ある時代の経済を理解するために絵図や絵巻物の読み取りを行うことが挙げられている。

これを踏まえて、本事例では、『一遍上人絵伝』を歴史資料として取り上げ、そこから読み取れる事象をもとに、13世紀の社会の様子について文章で表現するという学習活動を行った。言語活動を充実させるには、歴史資料そのものへの興味・関心が高まっていることが大切である。絵画資料の読み取りを行うことで、生徒の興味・関心を引き出し、調べたり、発表したり、まとめたりする一連の学習が円滑に進むのではないかと考えた。また、単に絵画資料の読み取りに終わるのではなく、それを学習の導入に位置付け、読み取りから抱いた疑問点について、調べた内容を発表したり、文章でまとめたりする活動を通して、表現力を育成することを目指した。また、通史的な学習内容との関連付けを重視し、単発的・トピック的な授業にならないよう注意した。

なお、実践は第2学年を対象に行った。

2 授業実践

(1) 指導目標

- ・絵画資料の読み取りから抱いた疑問点を文章に表現することができる。
- ・疑問点について、他の資料で調べたり、班の中で意見交換したりすることを通して考察することができる。
- ・調べたことや、他の班の発表で得られた情報を踏まえて、13世紀の社会の様子について、文章でまとめることができる。

(2) 指導計画（3時間）

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準〔評価方法〕
1	・『一遍上人絵伝』を見て、疑問に思った点や興味をもった点について、班で話し合っって仮説を立てる。 ・班で調べるテーマを決める。	・自由に発言できる雰囲気をつくる。 ・班員のそれぞれの仮説を尊重して話し合いを進めさせる。	・資料に関心を示し、意欲的に読み取りを行っている。 【関心・意欲・態度】 〔ワークシート、話し合い〕
2	・班で決めたテーマについて書籍やインターネットを活用して調べる。 ・発表に向けて調べた内容をまとめる。	・自分たちが立てた仮説と調べた結果とを区別してまとめさせる。	・書籍やインターネットを活用し、集めた情報を適切にまとめている。 【資料活用の技能・表現】

			[話し合い、発表用資料]
3	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめた内容をわかりやすく発表する。 ・一連の学習活動で得られた情報を踏まえて、13世紀の社会の様子について、各自で文章にまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ・聞き手にとってわかりやすい発表をしている。 ・収集した情報を踏まえて、文章を書いている。 【資料活用の技能・表現】 【思考・判断】 [発表、ワークシート]

(3) 授業の概要

① 1時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習内容の予告と教科書の関連する内容を確認する。 	
展開 40分	<ul style="list-style-type: none"> ・『一遍上人絵伝』についての説明を聞く。 ・『一遍上人絵伝』を見て、疑問に思った点や興味をもった点をワークシートに書き出す。 ・各自が書き出した疑問点や興味をもった点について、班で話し合っって仮説を立てる。 ・班で調べるテーマを決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・製作年代(13世紀後半)と描かれている場所(備前国福岡市)について、既習事項を踏まえて説明する。 ・各班に1枚ずつ、『一遍上人絵伝』(A3判に拡大しカラーコピー)を配付する。
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・次回の学習内容についての予告を聞く。 	

1時間目の授業に先立ち、生徒をA～Jの10班に編成させておいた。当日は、予め班ごとに着席させておき、『一遍上人絵伝』のカラーコピーを各班に1枚ずつ配付した。コピーが配付されると、多くの生徒が身を乗り出して見入るなど、生徒の資料に対する関心が高まっている様子が見られた。

『一遍上人絵伝』に関しては、製作年代、描かれている備前国福岡市の現在の場所(岡山県南部)、さらに主題について説明し、既習事項の内容と関連付けるよう配慮した。

説明の後、『一遍上人絵伝』を見て疑問に思った点や興味をもった点を、各自のワークシート<『一遍上人絵伝』備前福岡市を読もう>(資料1)に記入させた。どのようなことでもよいので積極的に書き出すよう促し、意欲を高めるようにした。また、展開の後半では、各自がワークシートに書き出した事項を班内で発表し、それぞれについて話し合いで仮説を立てる作業を行った。さらに、その中から班で調べるテーマを決めさせた。

なお、資料の読み取りを実際に始めたところ、人物に関する疑問が多く取り上げられていたため、人物以外にも注目させた。



(疑問点を書き出す)



(班で調べるテーマを決める)

生徒が書いたものの中からいくつかを紹介する。

疑問に思ったことや興味をもったこと	仮 説
①壺に関するもの	
・大きな壺が置かれているのはなぜか。	→ →中に酒や米が入っているのではないか。
・壺がたくさんあるのは何に使うのか。	→ →保存食が入っているのではないか。
②人物に関するもの	
・帽子のようなものを被った女性が多い。	→ →防寒対策ではないか。
・船に乗っている人は何をしているのか。	→ →漁師ではないか。
・お坊さんの前に立っている男は、なぜ刀を抜こうとしているのか。	→ →金銭トラブルでもあったのではないか。
・白い布を着ている女性は何者か。	→ →当時の女性の風習だったのではないか。
・男が持っている楽器は何か。また、男の職業は何か。	→ →楽器は琵琶ではないか。男は琵琶を演奏する演奏家ではないか。
・上半身裸の男性は何者か。	→ →貧しい身分で物乞いをしているのではないか。
③商品に関するもの	
・売られている魚はどこで採ったのか。	→ →川や海の両方が近いので、川魚も海の魚もあるのではないか。
・魚屋にいる緑色の鳥は売り物か。	→ →魚屋のペットではないか。
・野菜が売っていないのはなぜか。	→ →なぜかわからなかった。
④船に関するもの	
・2隻ある船は何に使うのか。	→ →箱のようなものが見えるので、何か荷物を運ぶための船ではないか。

授業の様子を見ると、各自が疑問点を書き出す活動よりも、班内で話し合ってそれぞれについて仮説を立てる活動の方に多くの時間をかけている班が多かった。班で調べるテーマの決め方は各班に任せた。班員が出した疑問点の中から一つを選び、それをテーマとする班や、疑問点のいくつかを関連付けてテーマを作った班、さらには、仮説を立てる話し合いの過程で新たに生まれた疑問点をテーマにする班があった。いずれの場合にも、決定するには班内で十分に話し合い、全ての班員が意欲的に活動に参加できるようなテーマにするよう注意を促した。

資料 1

ワークシート＜『一遍上人絵伝』備前福岡市を読もう＞

2年 組 番 名前 _____

＜1時間目＞

作業1 『一遍上人絵伝』を見て、疑問に思ったことや興味をもったことを箇条書きで書き出してみよう。

作業2 上に書いた項目について、班のメンバーと話し合っ、仮説を立ててみよう。

作業3 班で調べるテーマを決めよう。

テーマ

＜2時間目＞

作業4 テーマについて調べよう。

※調べたことや話し合ったことはノートに書いておこう。

※「発表用原稿」と掲示資料を作成しよう。

＜3時間目＞

作業5 発表をしよう。

作業6 今回の学習活動を通して、13世紀の社会の様子はどのようなものであったか、文章でまとめよう。

② 2 時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	・ 本時の活動内容の説明を聞く。	
展開 45分	・ 前時に決めたテーマについて、各班で調べる。 ・ 調べた内容を整理し、「発表用原稿」を書く。また発表の際の掲示資料を作成する。	・ 掲示資料は B 4 判 2 枚にまとめさせる。
まとめ 2分	・ 次回の学習内容についての予告を聞く。	・ 発表時の役割分担をさせる。

調べる際には、教科書や資料集の他、図書館にある書籍を積極的に活用させた。また、必要に応じてインターネットも利用させた。いずれの場合も、利用した書籍やインターネットのアドレスなどを控えておくよう指示した。調べた内容を十分伝えられるよう、「発表用原稿」(資料 2)を作成させ要点を箇条書きにまとめさせた。また、要点をまとめた掲示資料を B 4 判 2 枚で作成させ、発表会終了時、全ての班の内容を黒板で一覧できるようにした。

各班が調べたテーマは以下のとおりである。

①壺に関するもの

J 班 「大量にある壺は何なのか。」

②人物に関するもの

A 班 「布を持っている女性とその前に立つ男性は何をしているのか。」

F 班 「船に乗っている男性の職業は何か。」

G 班 「布を持っている女性はクリーニング屋ではないのか。」

I 班 「琵琶のような楽器を弾いている男性は何者か。」

③商品に関するもの

C 班 「魚屋にいる鳥は何なのか。」

D 班 「この市で売られているものは何か。」

E 班 「この市は月に何回開かれ、何が売られていたのか。」

④船に関するもの

B 班 「川に浮かんでいる 2 隻の船の用途は何か。」

H 班 「船は何を運ぶためのものか。」



(書籍で調べている様子)



(わからないところはアドバイス)

資料 2

「発表用原稿」 < 『一遍上人絵伝』 備前福岡市を読もう >

2年 組 番 名前 _____ () 班

1 私たち () 班は、「 _____ 」について調べました。

2 使用した資料

- ・ 著者名 『 書名 』 出版社名、発行年、引用した頁。
- ・ インターネットのホームページ名、アドレス。
- ・
- ・
- ・

3 調べて分かったこと

※要点を、話す順番に、箇条書きでまとめよう。

③ 3 時間目の授業

時間	学 習 活 動	備 考
導入 3分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の活動内容の説明を聞く。 	
展開 45分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「発表用原稿」にもとづいて発表する。 ・ 各班の発表を聞き、必要な情報をメモに取る。 ・ 各班の発表について、評価をする。 ・ 一連の学習活動で得た情報をもとに、13世紀の社会の様子について、ワークシートに文章でまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一班3分で発表させる。 ・ 発表内容に対する疑問点もメモに取らせる。 ・ 発表の内容や、わかりやすさなどに注目させる。
まとめ 2分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業に関するアンケートに回答する。 	

「日本史B」の授業で発表会を行うのは初めてであった。そのため、生徒の多くが発表に不慣れであると考え、「発表用原稿」（資料2）を前時に作成させて、発表を聞くときには、新しい情報や興味をもったこと、疑問に思ったこと等をメモするよう指示した。疑問に思ったことは、全ての班の発表が終わった後に質問するよう指示した。また、各班の発表に対しては、「発表評価シート」（資料3）を用いて評価させた。



（『絵伝』を指さしながら説明）



（手分けして資料を掲示）



（班員全員が前に出て発表）



（最後の班の発表が終了した時点の黒板）

発表では、各班とも要点を押さえた説明ができており、「発表用原稿」の効果が表れたと言える。また、聞く側の生徒も黒板の方を向いて聞いたり、メモを取ったりするなど意欲的な姿勢が見られた。「発表用原稿」に書かれた内容から、各班の発表内容を紹介する。

< A班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「布を持っている女性とその前に立つ男性は何をしているのか。」

◎発表内容

- ・画面左側の上部に男が描かれている。笠をかぶって布を持った女性の前に立っているが、道を尋ねているように見えた。
- ・よく見ると男は手にお金を持っている。
- ・これは銭の穴にひもを通して束ねたもので「銭さし」という。
- ・鎌倉時代は「銭さし」の状態では保管、流通していた。
- ・12世紀末から宋銭の輸入が増加したので、この銭は宋銭であると考えられる。
- ・男は宋銭の「銭さし」で布を買おうとしていると考えられる。

< B班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「川に浮かんでいる2隻の船の用途は何か。」

◎発表内容

- ・船に箱のようなものが積まれているので、これは漁船ではなく荷物の運搬船と考えられる。
- ・船から降りようとしている男も荷物を抱えている。
- ・備前国福岡の市は吉井川の岸にできたそうである。吉井川は水運が盛んで、瀬戸内海の水運とも連絡し、商品を全国に運んでいたらしい。
- ・2隻の船は、吉井川で商品を運搬している船であると考えられる。

< C班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「魚屋にいる鳥は何なのか。」

◎発表内容

- ・鳥は天井からつるされているように見える。生きている鳥ならかごに入っているはず。
- ・従って、この鳥はペットではなく売りもの。猟での獲物。
- ・インターネットで吉備国際大学の教授の論文をみたところ、これは売られている山鳥であると書かれていた。
- ・緑色の比較的大きな鳥なので、この山鳥はきじのオスではないか。
- ・この店は魚のほかに、鳥や干しタコも売られている。

< D班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「この市で売られているものは何か。」

◎発表内容

- ・壺…これは備前焼で水を蓄えたり、酒の醸造に使われたりした。
- ・履物…下駄が売られている。
- ・布…染色されたものと白いままのものがある。
- ・食料…魚と米。米は俵に入っていて升で量り売りしている。

< E 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「この市は月に何回開かれ、何が売られていたのか。」

◎発表内容

- ・福岡市は月に3回開かれる三斎市であった。
- ・売られているものは、備前焼の壺、下駄などの履物、布、米、魚、鳥。
- ・壺は何かの貯蔵用だったのか。
- ・多くの人が日用品や食料をこうした市場で買っていた。

< F 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「船に乗っている男性の職業は何か。」

◎発表内容

- ・船に乗っている職業なので、運送業者か漁師のどちらかであろう。
- ・船に箱がのっているのがこれは荷物ではないか。つまり、この船は運送用と思われる。
- ・インターネットで吉備国際大学の教授の論文を見たところ、布を買っている男性の履物は足半というらしい。これは、高瀬舟という運送船の船頭に多く用いられたらしい。論文によれば、そのことから、この男性は運送船の船頭であろうとしている。
- ・以上の点から、画面にある船は高瀬舟という運送船と考えられる。

< G 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「布を持っている女性はクリーニング屋ではないのか。」

◎発表内容

- ・川も近くにあるのでクリーニング屋と思った。しかし、店の中に掛けられている布が綺麗なため、これは売り物だと思う。
- ・女性の前に立つ男性は、手に銭の束を持っている。布を買うためだろう。
- ・店の前に座っている女性は、布を手にとって丁寧に見ている。買おうかどうか迷っているのでは。
- ・以上の点から、この女性は布を売っている店の店員。ちなみに、かぶっている笠は市女笠という。当時の女性に用いられたもの。

< H 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「船は何を運ぶためのものか。」

◎発表内容

- ・船に乗っている荷物をみると、一隻の方には四角い箱、もう一隻の方には笠と桶のようなものがある。
- ・船から降りようとしている男も両手に荷物を抱えている。そのひとつは筒のように見える。
- ・船の下の所に俵を積んだ馬が見える。米は船ではなく馬で運ばれたのか。
- ・船は、この市で売買される商品を運んだ。ただし、米は馬が運んだと考えられる。

< I 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「琵琶のような楽器を弾いている男性は何者か。」

◎発表内容

- ・この楽器はその形から見て琵琶である。
- ・授業でやった琵琶法師ではないか。市に来ている人を相手に平曲を語っているのだと思う。
- ・しかし、琵琶法師は僧侶のかっこうをしているはず。この男性は髪の毛やひげを伸ばし、烏帽子を付けている。服も僧侶の服とは違う。
- ・琵琶法師ではないが、琵琶を演奏する演奏家のような仕事をしていると考えられる。

< J 班の発表内容 >

◎調べたテーマ

「大量にある壺は何なのか。」

◎発表内容

- ・備前国は備前焼の産地。描かれているのは備前焼のかめ。
- ・備前市のホームページなどによると、備前焼は鎌倉末期から福岡市に集められ、吉井川で河口の片上港に運ばれた。さらに瀬戸内海の手運で全国に販売されたらしい。
- ・画面中央の建物の下に転がっているものは、中が空なので、かめ自体を売っている。備前焼のかめは、水がめや穀物入れ、酒の醸造用に利用された。
- ・画面右端の立ててふたをしてあるかめは、水や酒を入れておくものであろう。

発表の内容を見ると、描かれた事象の背景についても調べられていることがわかる（下線を付けた部分）。発表が全て終わってから、ワークシート（資料 1、p 7）の作業 6（「今回の学習活動を通して、13世紀の社会の様子はどうなものであったか、文章でまとめよう。」）を行わせた。

生徒の書いた文章の一部を紹介する。

< 生徒 1 >

お互い思いやって物と物の交換や物とお金の交換をしていた。機械や電子に頼らず、自分の力で輸送や話し合いをしていた。

< 生徒 2 >

市を盛んに開いて、魚、布、ツボなどを売って、お金のやり取りをしていた。庶民の交流の場が市だった。また、船や馬を使って物の輸送が陸でも水のところでも行われていた。

< 生徒 3 >

それぞれの人自分たちで売物を作ったり、とったりして、その売り物を市を開くことによってお金を手に入れ、その銭で自分に不足している物を買ったりしていた。市を開くことで、人と人がかかわって生活していたのだと思う。

<生徒4>

鎌倉時代は、船とか馬で物を輸送していた。そして、市にそれらを持ってきて、人々は市で物を買って生活していた。

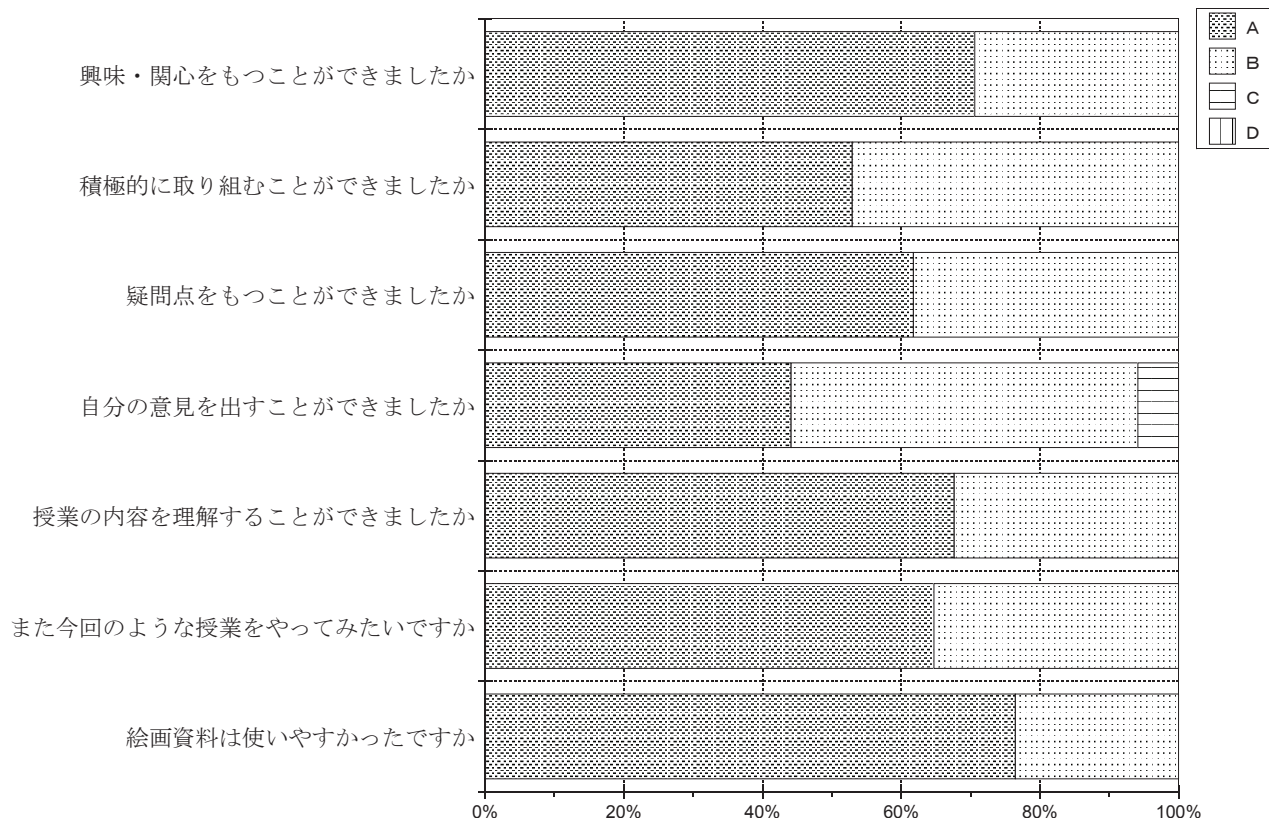
<生徒5>

月に3回ほど市が行われていて、とても活気に溢れていて、愉快的暮らしをしているようだ。貧しい感じもあるけれど、商売人がいて、買い物客がいて、楽器を弾く人や子供もいて、温かみがある。

書かれた内容を分類すると、<生徒1><生徒2><生徒3>のように、貨幣の普及や市場の役割に関する内容を書いた生徒が15名いた。<生徒4>のように輸送の役割に関する内容を書いた生徒が4名、<生徒5>のように、人々が協力し合っていた時代であるとか、市場の活気ある様子から豊かな時代だったのではないかという内容を書いた生徒が15名いた。特に、この時代の学習内容として重要な貨幣の普及や市場の発達、輸送の発達といった事項について、自分の言葉で書けた生徒が出たことは大きな成果である。絵画資料への興味を導入に、学習活動を進めてきた成果ではないかと考える。

(4) 生徒による授業評価

3時間目の終了後、アンケート用紙を配付し、後日回収した。集計の結果は以下のとおりである。なお、評価はAが「あてはまる」、Bが「どちらかというにあてはまる」、Cが「どちらかというにあてはまらない」、Dが「あてはまらない」である。



アンケートの結果を見ると、生徒の興味・関心が高いことがわかる。また、資料の読み取りなどから疑問点をもつこともできており、そうしたことが授業の内容の理解につながったと考えられ

る。一方、「自分の意見を出すことができましたか」という質問に対する評価が若干低い。1時間目の最初に、絵画資料を見て疑問点などを出す作業を行ったが、その後の班別の活動の中で、そこで出された個別の疑問点が十分生かせなかったかという生徒の声を聞いた。こうしたことが、評価の低さにつながっていると思われる。

また、自由記述の欄には次のような感想が書かれていた。

- ・皆と考えたり、調べたりすることがよかった。
- ・自分で考えるという事で、教科書を読むだけの授業よりも理解ができた。
- ・いろいろな意見が聞けてためになる授業だった。
- ・友達とグループになっていろいろな意見を言ったりして、いつもより興味関心がもてた。
- ・みんなの意見を聞いて、自分と比べたりすることができてよかったと思う。
- ・とても楽しく、鎌倉時代のことが少し分かった。
- ・今回の授業を通して、歴史に興味をもつことができた。
- ・今までより資料などをよく見ることができた。
- ・いろいろなことが分かって、歴史に興味をもった。

感想からは、グループ学習や資料を活用した学習が、生徒の授業の内容に対する理解を深めたり、興味・関心を高めたりしていることが読み取れる。また、今回の授業の内容だけではなく、歴史に対する興味をもつようになったという感想も多く見られた。

3 まとめ

(1) 成果

本事例では、絵画資料の読み取りを学習の導入に位置付けることで、生徒の歴史事象に対する興味・関心を高め、さらに読み取りで抱いた疑問点などについて調べたり、その内容を発表したり文章に書いたりするなどの活動を通して、表現力を育成することを目指した。

すでにアンケートの分析のところで述べたように、絵画資料を用いたことで生徒の興味・関心を高めることができたと言える。また、今回の授業を通して歴史に対する興味をもつようになったという感想も見られるなど、絵画資料を用いることの効果が大きいことがわかった。表現力の育成に関しても、多くの生徒が、調べてわかったことや他の班の発表を聞いて、13世紀の社会の様子について自分の言葉でまとめていた。さらに、貨幣経済の発達や輸送、商業の発達など、13世紀の社会についての学習内容の要点とを、多くの生徒が書いていることは大きな成果であると言える。

今回使用した『一遍上人絵伝』の備前国福岡市の場面には、様々な事物が描かれており、生徒が、描かれている人物や売られている商品、船や馬など様々な点に注目して資料を読み取ることができた。このことは、活動が活発になったり、発表を通して生徒が様々な情報を得たりする上で有効であったと思われる。

(2) 課題

今回の実践では、各自で絵伝を読み取り、疑問点を書き出すことから始めた。さらに、各自が書き出した疑問点について班内で話し合い、班で調べるテーマを決定させた。書籍やインターネットなどを活用して調べる活動を行うためには、班で調べるテーマを一つに絞ることが必要であると考え、このような流れとした。その結果、各班の発表内容に見られたように、絵伝に描かれ

た事象の背景についても調べることができるなどの効果があった。一方、最初の活動で出された各自の疑問点とその後の活動に生かされないという問題も出た。

各自が抱いた疑問点とその後の活動の中に生かすことは、生徒の学習意欲を高める上で不可欠である。上に述べた問題を解決するためには、各班で調べるテーマを二つにしたり、同じテーマを調べる班が出ないように教師が調整をしたりすることで、生徒ができるだけ多くのテーマを調べることができるようにするなどの工夫が必要である。